木の性能を知って使う

あきる野市でツアー

学生が製材所訪ねる

輪切り丸太の年輪を数える学生

木材の生産現場や製材所を訪ね、木が製品になるまでの過程を学ぶツアーが、あきる野市で8、9日に行われた。建築、インテリア活環境デザイン学科の1年生50人余りが沖倉製材所と養沢の山を訪ねた。

沖倉製材所では、山から切り出した丸太がどんな工程を経て柱や板に加工されるのかを5、6人のグループごとに見学。輪切りにした丸太の年輪を数え、日当たりなどの環境や樹種の違いにより生育に差があることなどを学んだ。そのほか丸太から柱を作る加工経費をクイズ形式で考えるなど盛りだくさんの内容だった。

ツアーを企画した同大学の樋口佳樹准教授は、地場産の無垢材を使った家づくりを提唱している。これから室内環境やインテリアを学ぶ学生に無垢材の優れた性能や素材生産の現場を知ってほしいとツアーを組んだ。

学生を受け入れた沖倉製材所は多摩産材を使ったオリジナルの木製品（SMALL WOOD TOKYO）の普及を通して多摩の山の再生をめざす。合同会社＋＋（たすたす・三鷹市）と組んで各地で山の現状や無垢材の良さを伝えるワークショップを実施。地道に共感の輪を広げている。（伊藤）